

式 辞

卒業生・修了生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。

また、今日まで皆さんを支えてこられた保護者・ご家族の皆様にも、教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。

さらに、ご多忙の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも、厚く御礼申し上げます。

本日、皆さんは藍野大学短期大学部を巣立ち、それぞれの新しい道へと歩み始めます。多くの方が、看護師・保健師として、人の健康や生活を支える対人援助職に就かれることでしょう。

そこで今日は、皆さんに一つだけお伝えしたいことがあります。それは、「人の話を聴くことの大切さ」です。

医療や保健の現場では、知識や技術はもちろん大切です。しかし、それだけでは十分ではありません。患者さんや地域の人々は、自分の不安や悩みを理解してくれる人を求めています。

人は、問題がすぐに解決しなくても、「話を聴いてもらえた」と感じたときに**安心する**ものです。そして、その安心感が、回復への力や、前へ進む勇気につながることもあります。

皆さんがこれから出会う患者さんや地域の人々の中には、言葉にならない思いを抱えている方もいるでしょう。そんなときは、急いで答えを出そうとするよりも、まずは相手の声に耳を傾けてみてください。

聴くという行為は、相手の存在を尊重することでもあります。しかし、同時に忘れてはならないことがあります。それは、**自分自身のことも大切にすること**です。

対人援助職は、人の痛みや苦しみに触れる仕事です。だからこそ、時には立ち止まり、自分の心や体をいたわることも必要です。自分を大切にできる人こそが、長く人を支え続けることができるのだと思います。

卒業生・修了生の皆さんには、藍野大学短期大学部で学んだことを誇りに、
本学の教育理念である

「病める人々を医やすばかりでなく慰めるために」

という言葉に胸に、これからの専門職人生を歩んでいただきたいと思います。

医療や保健の世界は、決して一人で働くことはありません。皆さんが現場で困ったときには、本学の先輩や仲間がきっと力になってくれるでしょう。そして、私たち教職員も、皆さんのこれからの歩みをいつまでも応援しています。

結びになりますが、卒業生・修了生の皆さんが、看護師・保健師として、そして社会人として大きく成長されることを心より願い、式辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

令和八年三月十四日

藍野大学短期大学部

学長 足利 学